



## 相川小6年生

## 元気に分かりやすく

## 学習成果 金山をガイド

佐渡市の相川小学校6年生が、観光施設「史跡佐渡金山」(佐渡市下相川)で行っているボランティアガイドが好評だ。児童は佐渡金銀山遺跡について学び、現地で成果を披露。観光客からは一生懸命に説明する児童に対し、感謝の言葉が贈られている。

相川小では、地元の佐渡金銀山の歴史について総合学習で学んでいる。世界遺産登録を目指す金銀山の魅力を伝えることなどを目的に、6年生は毎年ガイドを実施している。

佐渡金山の施設内でガイドをする相川小の6年生12日、佐渡市相川地区

6年生23人は2日、観光客に説明するため、グループに分かれて江戸時代の坑道「宗太夫坑コース」へ。排水、採掘、製錬などの場所で見学しながら説明した。

鉱石を掘った「金穿大工」について「(岩盤が固く)鉱石を掘るたがねは、2日に1回交換した」「給料は高額だったが、大変な仕事だった」などと、パネルや手作りの道具を使いながら

元氣よく解説した。金山の繁栄を「やわらぎ」についた宇田航大君(11)ら、大きな声で分かりやすく説明するよう心掛けと語った。

観光客は児童の言に耳を傾け、説明が「あったよ」などと言った。愛知県稲沢市山中秀夫さん(73)は「佐渡に来たが、これから金山を学べた。産を目指している人が、若い人たちに話してほしい」と喜んで、児童は8日、再び山でガイドを行う。

佐渡

ねんせい  
3年生がよいのまいで  
あいかおんど  
相川音頭を踊ります。

佐渡支局 〒952-0006 佐渡市春日1143-9  
0259(27)2495  
(27)4811  
FAX(27)2090



# 相川音頭元気に踊るぞ

## 宵乃舞 地元の児童が初挑戦

6月6、7の両日に佐渡市相川地区で行われる「宵乃舞」に、相川小学校の3年生26人が初めて参加し、地元の民謡「相川音頭」を歌って踊る。元気いっぱい姿を見せようと、児童は張り切って練習に励んでいる。

宵乃舞は、鉾山町の風情が残る京町通りを舞台に相川音頭を踊り流すイベントで、今年で14回目。昨年は2日間て約6千人が訪れた。

相川小では観光客に伝統の歌と踊りの良さを知ってもらおうと、地元グループの「七浦民謡研究会」と「立浪会」から指導を受け、相川音頭の演目の一つ「源平軍談」の練習に大型連休明けから取り組んできた。歌い手の児童たちは、勇壮さを演出しようと「どっ

元気よく踊りの練習をする相川小の児童ら1127日、佐渡市相川下戸村

と笑うて」で始まる歌い出しに力を込めて練習。踊り手の児童たちは、手の動きと足の運び方を何度も確認している。本番が近づき、歌と踊りを合わせた練習に入っている。指導陣からは「上手になってきた」「いい動きだよ」と声が掛かるようになった。踊り手を務める中川瑛寿君(8)は「相川に伝わる踊りの良さを見てもらいたい」と意気込み、浜本稔さん(9)も「失敗を恐れず恥ずかしがらずに踊りたい」と話す。

児童は6日のみの参加で、午後6時ごろから佐渡奉行所前で歌と踊りを披露する。